



OPGE通信

東京学芸大学男女共同参画推進本部ニューズレター

Vol.11 2009年6月17日

特集：馬淵理事・副学長にインタビュー

OPGE通信Vol. 11は、馬淵総務等担当理事・副学長に学芸大学における男女共同参画活動や保育施設設置についてお聞きしました。（インタビュー日4月23日）

男女共同参画推進本部のこれまでの活動について

本部（以下、本）：お忙しいところ、本日はありがとうございました。馬淵先生は男女共同参画推進本部の担当理事ですが、これまでの本部の活動についてどのように思われていますか？

馬淵理事・副学長（以下、馬）：本部長を通して様々な活動の様子を聞いていますが、皆さんの熱心で多方面、積極的な活動には敬服しています。例えば、毎年企画されている男女共同参画フォーラムも、なかなか好評です。それから、「子育て期にある教員の大学院夜間授業の負担軽減」や「保育施設設置」など、具体性に富んだ提言をしてもらっていて、前者に関しては非常勤講師を措置することになりました。もちろん、意識改革など抽象的なことも大事ですが、そのように具体的に姿の見える結果を出していける活動が事業としては重要だと思います。また、OPGE通信もわかりやすくいいですね。大学として、このような広報活動はこれからますます重要になっていきますから。

男女共同参画推進に関する今後の大学の見通し

本：人事なども含めて、今後の大学での男女共同参画推進に関する取り組みなどはどうなっていくのでしょうか？

馬：まず、女性教員を増やすことが目標ですね。と言っても、女性教員ばかりを重視するということではなく、全体としての比率を意識して上げていくような形で実現していくものだと思います。また、女性職員も増やす必要がありますし、特に管理職の女性の数を増やすべきでしょう。50歳以上の職員は女性が少ないなど問題もありますが、若い方を抜擢するとか、意識の上でも制度的にも改善していく必要があると思います。日本では特定の分野で女性が少ないという傾向が見られますが、これは改善の必要があります。そのような意味で、学芸大学が男女共同参画のモデル校になれば良いと思います。女性教職員の比率を上げることをはじめ、さまざまな問題に率先して手を打ち、附属校を含めて大学自らが意識して男女共同参画を推進していくことが重要です。学内保育施設（以下、保育所）の設置はそのためのバネになると考えています。保育所の設置によって、教職員や大学院生の男女共同参画に資するだけでなく、地域との連携も推進できるでしょう。

本：保育所の設置ですが、具体的にどのような形で進んでいるのでしょうか？

馬：保育所の建設準備会議が4月末から始動します。最初は、既存の施設の改修と絡めてという案もあったのですが、簡便でもしっかりした施設を新設した方が安価ということになりました。こどもモードハウスも屋根や内装など改修の必要がありますので、それとあわせて保育所の新設を考えています。保育所とこどもモードハウス、そして幼稚園とこれらの施設

の周りに、小さい子どものためのゾーニングを行って、周辺全体をセットとして活用できる計画をつくっていきたいと思います。

本：近くにはローソンもオープンしましたね。

馬：ローソンに隣接するコミュニティーセンターの近くにある空いたスペースを保育所にするという案もあったのですが、新小金井街道は交通量が多いので安全が問題になりました。将来はそのスペースを菜園などにして保育所の食育などに活用するのも一案かと思っています。コミュニティーセンターを子どもの作品発表会などに活用することも考えられます。しかし、ローソンと学芸大の間の交通安全は、学生の利用も含めて今後の検討課題です。

本：保育所設置の費用やランニングコストが気になるのですが？

馬：設置の費用には大学の目的積立金の一部を使用する予定です。この目的積立金は中期計画最終年度の今年度中に使い切らねばなりません。また、保育所のランニングコストについては、完全に受益者負担にはできませんから、大学から応分の負担をすることになると思います。それから、保育所の設置形態・運営方式にもよりますが、小金井市からのサポートも得られればありがたいのですが…。

本：保育所設置を提言したのは本部ですが、大学として素早く大きな決断をされたことに正直なところ少し驚いています。

馬：本部の積極的な活動に応えたいということもありますが、男女共同参画のモデル校になるために必要な措置だと考えます。0歳児保育や病児保育も視野に入れて、総合的な保育施設とすることで、地域に対しても魅力の大きな活動にしたいですね。また、教員養成大学として、教育とできるだけリンクした事業となるように、関係者が協議できる場を設けて建設的に考えてもらえると良いですね。



馬淵先生ご自身の男女共同参画は？

本：馬淵先生ご自身の男女共同参画についてお伺いしたいのですが。

馬：私は、男女が別々に役割分担しなければならないことはごく少ないと考えています。子育てもお互いに相談しながら担当すべきだと思います。法律面も整備されてきましたし、男性も育児休暇を積極的に取るべきでしょう。私自身は料理が好きで、たいへん忙しいときは別ですが、日々工夫して料理することで気分転換ができますし、作った料理を食べて美味しいと言ってもらえるとうれしいですね。先日もタケノコを使った料理をいくつか作りました。

本：失礼ですが、馬淵先生のご年齢でそのような考え方や実践をされる方は少ないのではないかと思います。

馬：学生のときには友人の洗濯をしてやったこともあります。子どもの頃は母親の見よう見まねで料理したり、祖母に頼まれて野草を採りにいくこともありました。でも、田舎で育ったときには食事の席が男女できっちり決まっていたりしたので、男性中心の社会が当たり前と心のどこか片隅では思っているのかもしれませんが、それを指摘されるとそういうものかと思いますが、だからといって意地を張るつもりはありません。

今後の本部に期待することなど

本：今後、本部の活動についてどのような期待や要望がありますか？

馬：財政面など厳しい状況にありますが、大学としてできることからやっていくしかない

と思います。そのためにも本部には今後も積極的な提案をしてほしいですね。本部の提案も最初の頃は面食らうようなものがありましたが、最近は現実性の高いものになっていると思います。ただし、提案を受けても大学としてすぐに実現できるとは限りませんが。教職員の女性比率を上げるということに関しても、いきなり何割という数値化は無理でしょう。時間をかけて、個別に細かく検討すればできることもあります。一朝一夕にはいきません。男女の別に限らず、最近では職員間や、学生と教員の間のすれ違い、それに起因する鬱症状などが大きな問題です。例えば、学生と教員にしても、本人たち自身は相手のために良かれと思ってやっていることがすれ違うというトラブルが起きていますが、このようなことをなくすための改善策が必要です。昨年度の東京都教員採用試験の二次試験で多くの学大生が落ちてしまったのは、今の学生には挨拶や受け答えなどのコミュニケーション能力が低いからだという指摘がありますが、学生だけでなく教職員もコミュニケーション能力を向上させ、学生のモデルにならなければなりません。そのために、教職員が意識を自己点検したり、学生と教職員がフリートークできるようなフォーラムなどを本部でも企画してほしいですね。

インタビューを終えて一馬淵先生には、男女共同参画に限らず、広い視野から今後の大学がどうなっていくべきかというお話をうかがうことができました。お話にもありましたが、大学として厳しい状況にはありますが、保育所設置などが明るい話題となって、大学の活性化が進むことを期待したいと思います。

平成21年度中の保育所設置をめざしています

男女共同参画推進本部は、発足当初の平成18年度から、学内保育所設置の検討を積み重ねてきました。「男女共同参画の精神に基づき、子育てを含む生活全般が仕事や修学と両立するように努める」という本学の男女共同参画基本方針を具体化するためのものです。平成19年1月実施の全学アンケートでも大勢の教職員が学内保育所の必要性を認めていました。これらの経緯を経て、5月28日には役員会の下に「保育所設置準備委員会」（委員長は馬淵OPGE担当理事）が発足しました。創立60周年記念事業の一環として平成21年度中の開所を目指して急ピッチで準備が進んでいます。場所はプール門脇の幼稚園と隣接する場所。利用者は本学教職員・学生を優先しつつも近隣へ開放する地域協力も視野にいています。

平成21年度OPGE助成が決定しました！

ご応募ありがとうございました。6件の応募に対し、OPGE助成事業に関する審査委員会の審査により、以下の活動に対して助成が行われることになりました。

申請代表者	所 属	活 動 題 目	交付金額
石津みどり	国際中等教育学校	ジェンダー視点を取り入れた家庭科の授業実践 (家族領域を中心として)	340,000
及川英二郎	人文社会科学系	小金井祭展示企画:戦時性奴隷制と植民地主義 —日本軍「慰安婦」制度をいかに教えるか—	280,000
椿真智子	人文社会科学系	地理教育におけるジェンダー的視点 —地理的関心と地域認識に関する実態調査—	180,000

今なおOK

学務課 山本のり子

定年になりましたが、まだ体力もあるのでちょっと思うことがあります。

昭和40年代後半、育児休業制度はなく、産後休暇も6週間というときに娘は産まれました。周りには共働きで子供を保育園に預けて働く先輩も多くいて、当然のように出産後も働き続けるものと考えていました。

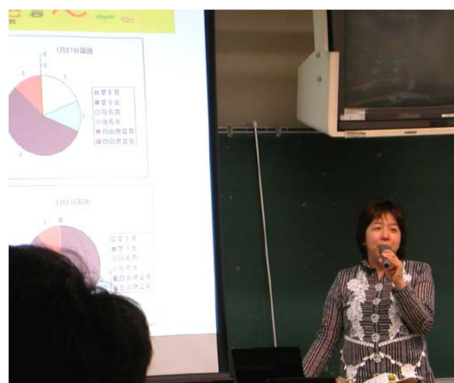
産休が終わり首も据わらない赤ちゃんを無認可保育所に預けて職場復帰。その後、認可保育園に入園、小学校入学後3年間の学童保育所と一通りの子育て支援を利用させてもらいました。（保育園が大学の近くにあったので時間的に楽でした。学内保育所であればもっと便利でしょうね。）

子育て中、家事は私がほとんどやりましたが、娘の入浴などは夫の協力もありました。そして娘はお父さんが好きでよい遊び相手でした。しかし、このお父さん、自分の楽しみに夢中になると子供のことは二の次ということがありました。家で夫に娘を見てもらい、私が保育園の集まりに出ているときに娘が保育園に姿を現したことがあります。なんと4kmほどもある道のりを一人で歩いて来たのです。さすがに夫も必死で探したようですが、私はあきれてものも言えませんでした。小学校の頃は親が帰るまで娘一人留守番で、さびしい思いもさせてしまいました。でも同級生のご飯をご馳走になったり、同級生が我が家でご飯を食べたりとご近所にも助けられて丈夫に育ちました。たくましく独立心旺盛なのはこのような環境で育ったせいでしょうか。

今、娘は昔の親と同じように共働きですが、このような親に育てられたせいか、私どもはまだ孫の顔を見るにいたっていません。今なら体力も時間もあり子育てに協力できるのと思うこの頃です。

お知らせ

6月3日に、第7回男女共同参画フォーラム 平成20年度OPGE助成報告会が行われました。3つの報告ともとても興味深い内容でした。多くの質疑やディスカッションが行われ、有意義な時間となりました。今年度の助成も決定し、来年度も報告会が行われますので、たくさんの方々の参加をお待ちしております。



〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学男女共同参画推進本部

●TEL/042-329-7108 ●fax/042-329-7114 ●E-mail/danjo@u-gakugei.ac.jp

●URL/http://www.u-gakugei.ac.jp/~danjo/

詳しい情報等はホームページをご覧ください。

